

# 病理病態診断学講座

## 講座・部門紹介

「病理学」は本来、病気の細胞や器官の形態学的変化と機能障害を正確にとらえ、病気の成因、成立機序、病態、転帰を明らかにする学問です。病理学第一講座は大きく「研究」と「病理診断学」に携わっています。

当講座は昭和25年に開校以来、一貫して人体病理学の分野の研究に携わり、中でも「マクロファージ、リンパ球の反応性ならびに腫瘍性病変」が研究テーマとして受け継がれ、特に「悪性リンパ腫の研究」では時代を常にリードしてきました。

「病理診断学」は、治療方針や予後を決定する上で欠くことのできない分野であり、病理学の診療科部門とも言えるものです。附属病院病理部の病理専門医として臨床医と密に連携し、質の高い治療の提供に反映させるため病理診断学の向上に努めています。

現在、教授以下約10名のスタッフで研究、教育、診断治療の充実・発展に取り組んでいます。

## staff スタッフ紹介



教授 阿部 正文

昭和48年 福島県立医科大学卒業

教育専門分野

人体病理学

研究分野

血液病理学（特にリンパ球の反応性ならびに腫瘍性病変）

## 研修医、臨床医入学時の研究分野

初期研修終了後は大学院生として、後期研修医は大学院生として、あるいは大学院研究生（臨床医）として研究に携わることが出来ます。その際の主な研究対象は「リンパ球の機能、リンパ節の反応性疾患、悪性リンパ腫の解析」、「小児腫瘍の病理」となりますが、これに限定されることはなく、他の器官・組織を含む人体病理学全体が研究対象です。

大学院生、大学院研究生は、それぞれ3年、5年で学位を、また、5年で病理専門医の資格を取得することが可能となります。

## 講座・部門の主な研究内容

免疫に重要な役割を担う「リンパ球の機能、リンパ節の反応性疾患、悪性リンパ腫」、「小児腫瘍」を専門に研究しています。特に、「正常リンパ球の分化成熟機構と機能の解明および悪性リンパ腫の診断、病態、生物学的特徴、病因ならびに発癌機構」について生物学的、生化学的、免疫学的、および遺伝子学的な手法を導入し、研究に取り組んでいます。

悪性リンパ腫の発生には遺伝子学的に検討し、また、その生物学的特性を明らかにするために悪性リンパ腫の細胞株を樹立し、その細胞株を用いたアポトーシスの発現機構、糖鎖発現と転移能の解析を進めています。

「小児腫瘍の病理」では、診断病理学、特に日本のGroup Study（大規模多施設研究体制）において免疫学的、遺伝子学的手法を用いて診断の向上と病因、病態の解明に参画しています。

## 講座・部門からのメッセージ

● 病理病態診断学講座では大学院生として研究に邁進することや学位取得後も国内外への留学を積極的に勧めています。当講座には米、独等の留学経験者が多数おります。

将来、病理専門医を目指す人のために病理診断科や福島県内の研修協力病院と連携し、病理専門医、細胞診断専門医などの各種資格の取得のための充実した専門医養成コース（プログラム）を用意しています。